

## 新規受託開始と 検査受託中止のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記の検査項目につきまして、新たに受託開始、及び受託中止をさせていただくこととなりましたので謹んでご案内申し上げます。

先生方には何卒ご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

### ■新規受託開始項目及び実施日

2021年 6月18日(金) ご依頼分より開始

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値 (単位)
4289	SRAS-Cov2 抗体 S IgG	血液 2.0 血清 0.5	A	冷蔵	2~4	未収載	CLIA	陰性 (-) 50未満 (AU/mL)

### ■検査受託中止項目及び最終受付日

新規項目受託開始に伴い、2021年7月22日(木) ご依頼分をもって受託中止とさせていただきます。

項目コード	検査項目	検査案内掲載ページ	備考 (代替え項目)
4044	SARS-Cov-2 抗体 S	P125	4289 : SRAS-Cov2 抗体 S IgG
0855	SARS-CoV-2 抗体 IgG	未掲載	

以上

検査のご依頼に関するご不明な点やご要望等につきましては、弊社営業担当、または学術インフォメーションまでお問い合わせ下さい。TEL : 075-631-6230

## ● 4289 : SRAS-Cov2 抗体 S IgG

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は、スパイク(S)、エンベロープ(E)、メンブレン(M)、ヌクレオカプシド(N)の4種類の構造タンパク質で構成されています。

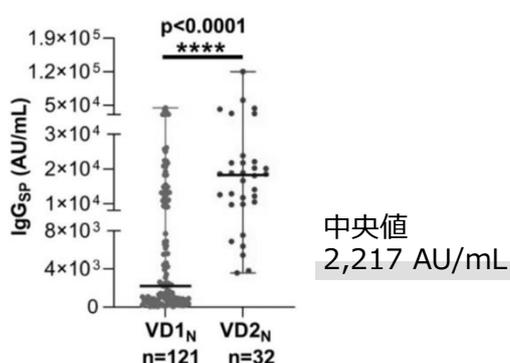
SARS-CoV-2 ワクチンは、S タンパク質特異的に免疫反応を誘発するよう設計されているものが多く、S タンパク質に対する抗体検査は、ワクチン接種前の免疫状態の確認およびワクチン接種後の免疫応答の定量測定などの使用が期待されています。

－プラーク減少中和試験 (PRNT) の結果－

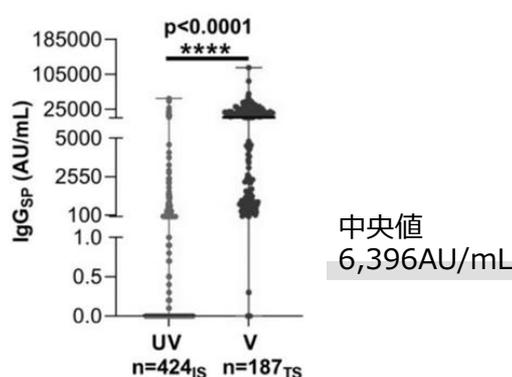
ウィルス量を 50% まで減少させることを確認する培養細胞での試験 (プラーク減少中和試験 (PRNT)) で、1:250 希釈の PRNT ID50 を使用した確率プロファイルの例では 95%信頼区間で 4,160 AU/mL と報告されています。

－ファイザー社/ビオンテック社製のワクチン接種後の抗体価－

1 回目の接種後



2 回目の接種後



J Clin Microbiol .2021 より引用

## ● 新規受託開始後の弊社抗体検査

	コード	使用目的		検査項目	メーカー	検査方法	ターゲット	基準値	備考
		ワクチン効果	既往の有無 <sup>※1</sup>						
新型コロナウイルス抗体検査	①4044	○	初期後期	SARS-CoV-2 抗体 S (ECLIA)	コシュ	ECLIA	S 抗体 (IgM・IgG)	陰性 (-) <math><0.8 \text{ U/mL}</math>	7/22 中止
	②4289	○	後期	SRAS-Cov2 抗体 S IgG (CLIA)	アボット	CLIA	S 抗体 (IgG)	陰性 (-) 50 未満(AU/mL)	6/18 開始
	③0856	×	初期	SARS-CoV-2 抗体 IgM (CLIA)			S 抗体 (IgM)	陰性 (-) Index1.00 未満(S/C)	
	④0927	×	初期後期	SARS-CoV-2 抗体 (ECLIA)	コシュ	ECLIA	N 抗体 (IgM・IgG)	陰性 (-) COI <math><1.0</math>	
	⑤0855	×	後期	SARS-CoV-2 抗体 IgG (CLIA)	アボット	CLIA	N 抗体 (IgG)	陰性 (-) Index1.4 未満(S/C)	7/22 中止

※1 初期 1～3 週目、後期 3 週以降。IgM 抗体は比較的早期に上昇、IgG 抗体は後期に上昇し、持続する。

※2 IgM、IgG 抗体の測定試薬をアボット社に統一、ワクチン効果判定用試薬を測定範囲の広い試薬へ変更。

※2 測定方法の統合

## ● 上記試薬の特徴について

	ターゲット	特徴について	使い分けについて
①②	S 抗体	スパイクに対する抗体	ワクチンの多くは S (スパイク) に対する抗体で有り、ワクチン効果の判定にはスパイクに対する抗体測定が有用
④⑤	N 抗体	ヌクレオカプシドに対する抗体	ヌクレオカプシドに対する抗体で過去に自然感染したかを判定。
②⑤	IgG 抗体	後期に上昇・持続	過去に感染したかを判定。
③	IgM 抗体	早期に検出可能	感染初期に上昇。現時点での感染は否定できない。中国渡航には PCR に加え、IgM 抗体の陰性証明が必要
④	IgM・IgG 抗体	IgM・IgG 抗体の両方を検出	感染初期から後期にかけて幅広く検査可能